

浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

浅間山では、3月15日頃から山体の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められています。また、21日以降、山体浅部を震源とする火山性地震が増加し、本日（23日）に入ってさらに増加しており、今後、山頂火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性があります。このため、本日（23日）15時30分に火口周辺警報（火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

防災上の警戒事項等

山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

浅間山では、15日頃から山体の西側の膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められています（図2）。また、21日以降、山体浅部を震源とする火山性地震が増加しており、本日（23日）に入ってさらに増加しています（図3、図4）。火山性地震の回数は、21日は39回、22日は60回、本日15時までは57回（速報値）です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

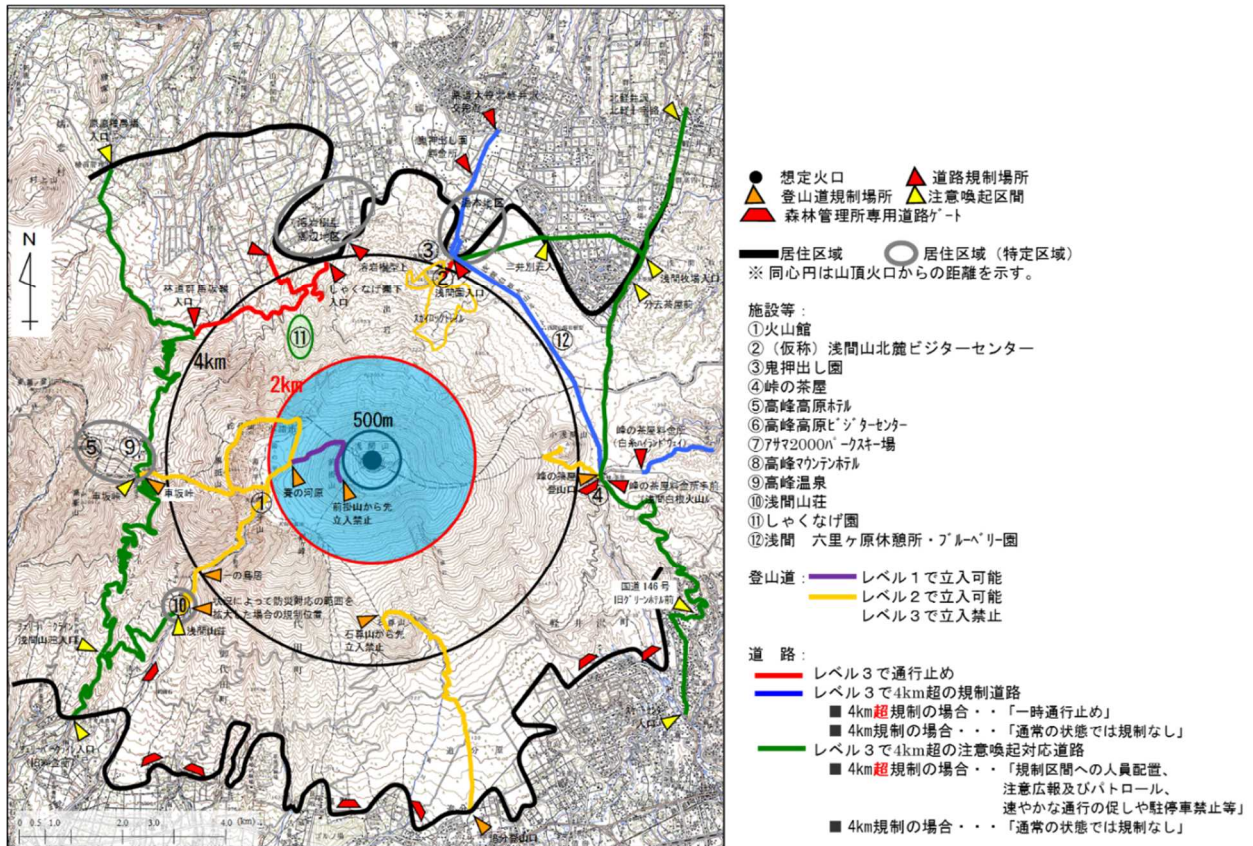


図1 浅間山 噴火警戒レベル2に対応した規制範囲（赤円内：山頂火口から 概ね2kmの範囲）

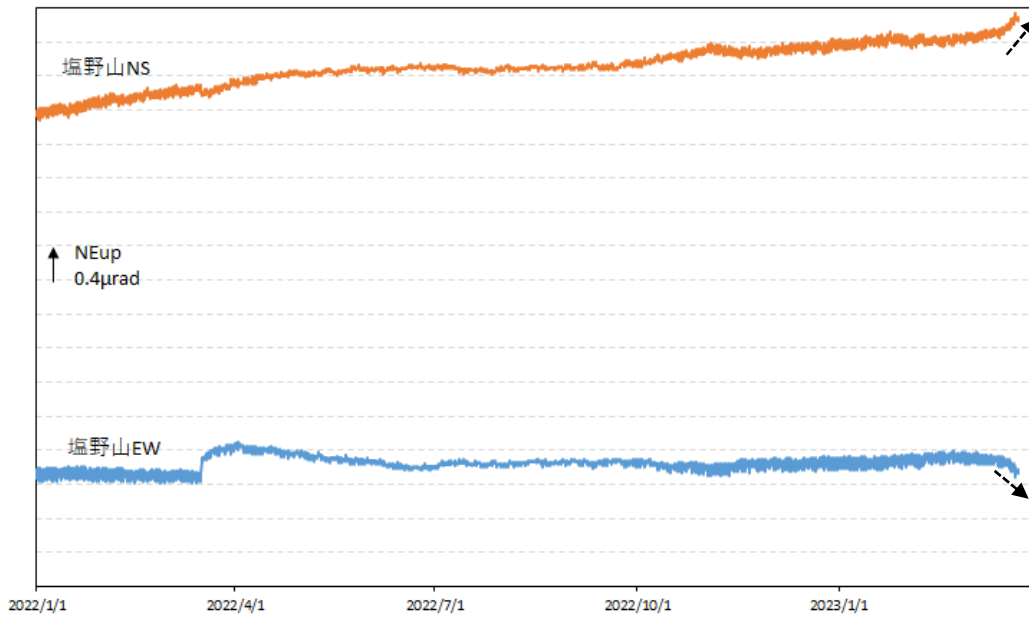


図2 浅間山 塩野山観測点における傾斜データ（2022年1月1日～2023年3月23日10時）
データは時間平均値を使用しており、長期にわたるトレンドを補正しています。

- ・ 3月15日頃から、山体の西側の膨張を示すと考えられる傾斜変動（矢印）が認められます。
- ・ これらは山体西側のやや深い所が膨張源と考えられる変化で、深部からのマグマ上昇を示す地殻変動と考えられています。

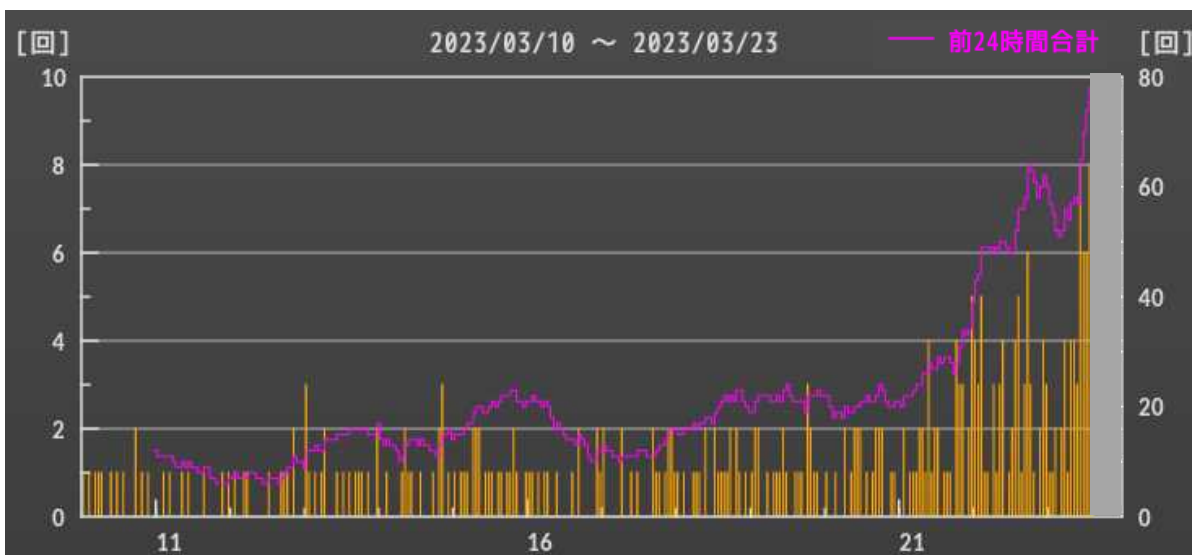


図3 浅間山 時間別地震回数（2023年3月10日～3月23日14時）

- ・ 3月21日以降、山体浅部を震源とする火山性地震が増加し、本日（23日）に入ってさらに増加しています。

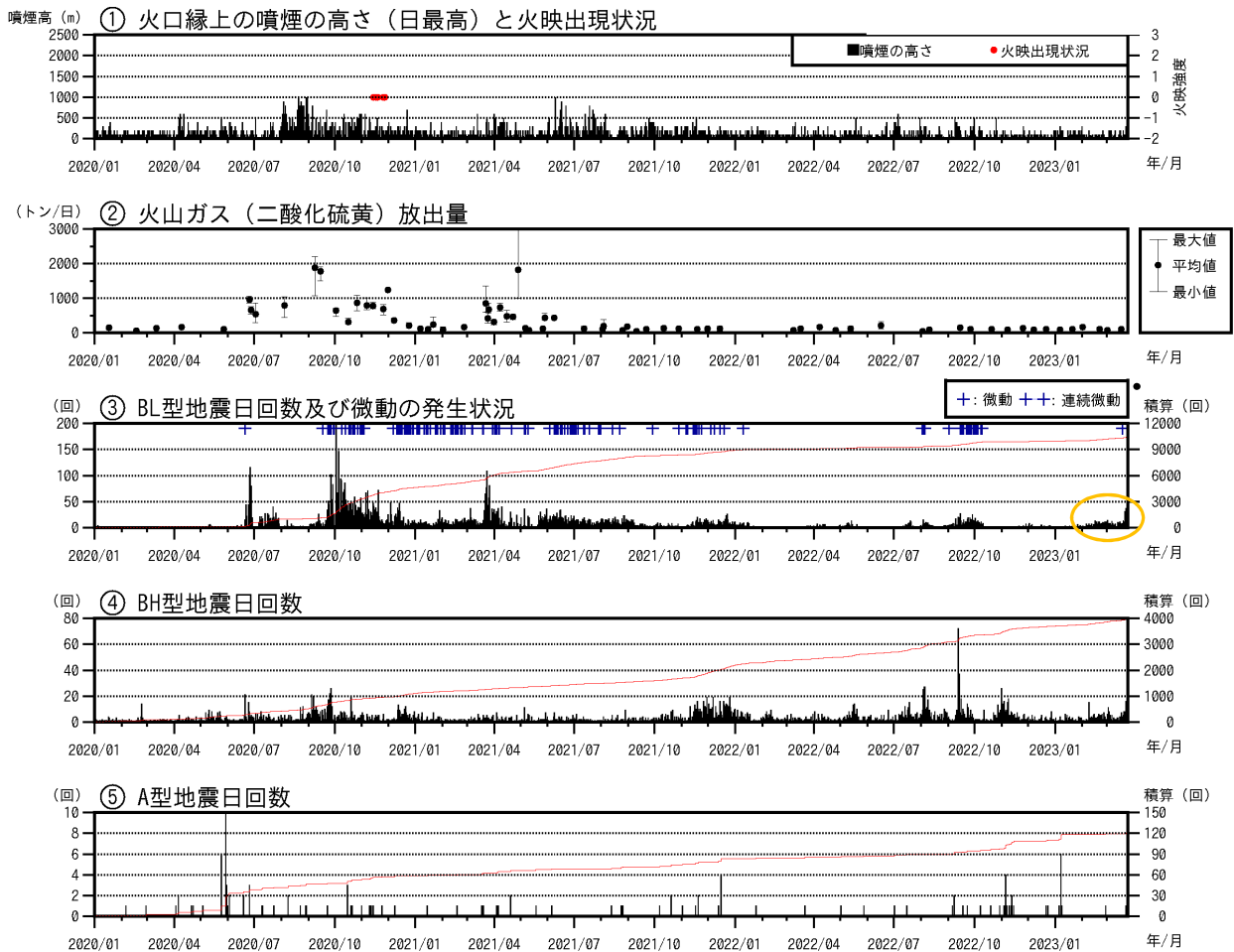
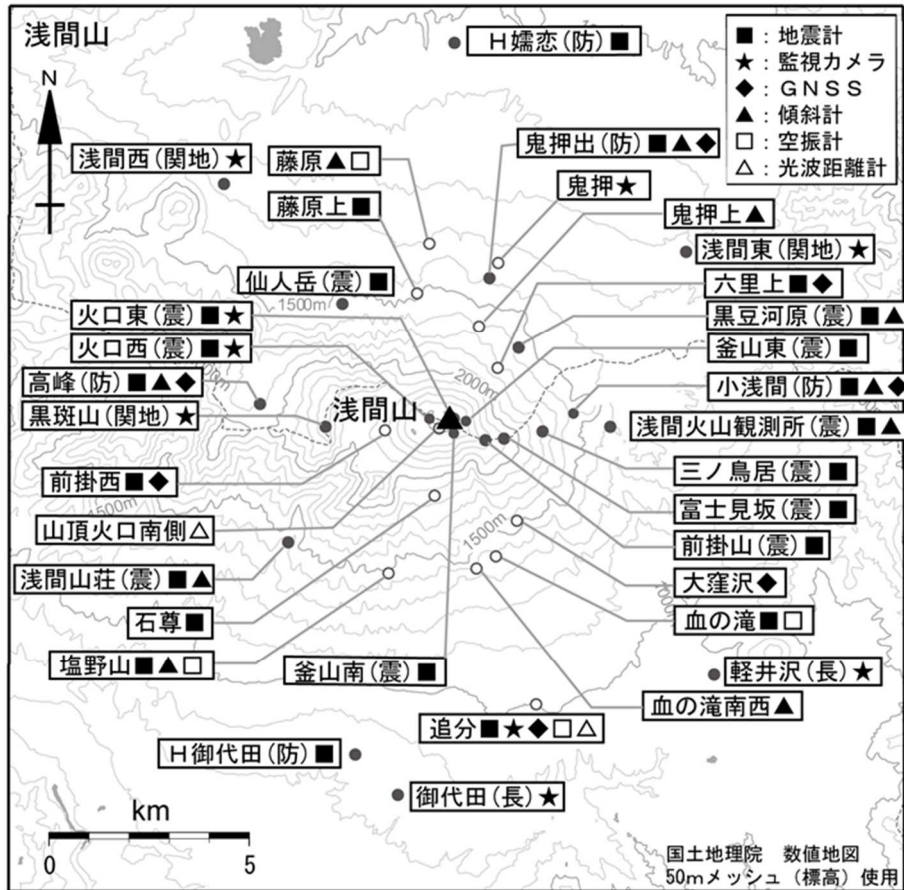


図4 浅間山 火山活動経過図（2020年1月1日～2023年3月23日）

- ・ 2023年2月頃からやや地震の増加傾向がみられます（③の黄色領域）。
- ・ 3月21日以降、山体浅部を震源とする火山性地震が増加し、本日（23日）に入ってさらに増加しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所、
(関地) : 関東地方整備局、(長) : 長野県

図5 浅間山 観測点配置図